

第2回 熊川宿若狭芸術祭

「東極」とは、日本、朝鮮半島を含む地域が、中国、アジア、ユーラシア、ヨーロッパ等の西側の世界から次々と押し寄せてきた文化を混在させながら融合し、変容させてきた極地の文化圏である。その中でも、極地・日本は、広く世界のさまざまな分野の刺激と影響を大きく受け、それらを柔軟に受容し、独自の新たな発信の主体となってきた。

現代に生きて、「東極」の地で制作に取り込む日本を初め東アジアの作家たちが相集い、明日に拓かれる美術を、極を逆転し、西側をはじめ世界に向けて発信する新たな展覧会を開催する。そのような発信の場としては、古代より大陸に開かれた玄関口であった若狭の地・熊川宿で開催される熊川宿若狭芸術祭は、最もふさわしいと考えられる。

「東極」の磁場 in WAKASA 2024

2024.10.5 (Sat.) - 11.11 (Mon.)

10:00-16:30(最終入場時間) ◆金、土、日、月、祭日閉館

熊川宿若狭美術館

〒919-1532 福井県三方上中郡若狭町熊川39-5-1 TEL&FAX 050-3565-5885
http://wakasa.sub.jp/gallery-kumagawa/

美術館事務局 〒919-1504 福井県三方上中郡若狭町大島羽27-13-4
若狭ものづくり美学舎内 TEL&FAX 0770-64-1788

● ギャラリー・トーク
10月5日(土) 13:30~

千石英世 (基調講演)
市野泰通
中川 猛
長谷光城 (進行)
丸山常生
山根秀信
李 海峰

● パフォーマンス
丸山常生
(ギャラリートーク終了後)

長谷光城



福井県の一隅・若狭に住み、豊かな自然と深くかかわりながら、生きることの根源を問い続ける。私の日常的な生活の営みから展開する<ものごと>と<社会>、それらの動と静とも云える<自然>が一体化した地方の実相。その実相は微妙なズレを生じさせながら流動的である。とらえにくい実相を、身のまわりにある多様な素材と一体となって形相化する試みが私の制作。トリアエス、カタチカズる試みを今日も続けている。

“install-action” という方法は、installation における造形的空間と action としての身体行為を、一連の作品として統合させた造語である。そこにはモノ(場)とコト(時間)、双方の局面からアプローチできる可能性が開かれている。揺れ動く「今・ここ」を起点とする、存在と消失の間に浮かぶ私たちの「生」、そして構築と崩壊を繰り返す私たちを取り巻く「環境」の様相は、この方法で私なりに再編成できるのではないかと考えている。

丸山常生



中川 猛

絵画制作から表現活動を続けてきた。その絵画のフレームの内側と、外側の関係に興味を持ったことから、内・外との関係をテーマに、身の回りのごくありふれた素材(合板パネルや、木、銅板、アルミ板、コンクリートなどの素材)を使い、作品空間と、観る側との関係に、視覚の変容を促す表現に取り組んでいる。TRANS STRUCTURE をはじめ、NEO ZIGGURAT、ANTINOMY (二律背反) をテーマにしたシリーズ作品などを制作している。



范 鐘鳴

早くも一年過ぎてしまいました。僕が相変わらず美術制作の「旅」が続いています。いつも追っているのは作品の新鮮さです。洗練されたものではなく、煮詰まったものでもなく、思考先行したのもでもない新鮮さが欲しい。作りかけのようなものを作りたい。キーワードはランダム、脱構築、無意味、内臓感覚そして自己コピーせずに!

市野泰通

近年は「すべての出来事は同時進行……」を念頭に、身近な生活環境の中にある素材(座標、重力、地軸、建造物、道路、廃材、自然環境等)を手掛かりにして、自身の中で同時進行する複数のアイデアやイメージを一つの作品として表現できないものかと試行している。今回の重力や位置関係を意識したインスタレーションも、日常と非日常が混在しながら複合的で複層的であることを目指して制作している。



李 海峰

私は円を使って絵を描いている。2007年から現在にいたるまで、すでに15年にわたっている。それは描画方法であると同時に、一種のシンボルともなっている。円は始まりでもあり、終わりでもある。また、私の絵は批判的、記録的、そして予見的という特徴を持っている。通常の点、線、面を使った描画法と比べ、円を使った描画法は描かれた対象の形態を正確かつ迅速に表現するのが難しく、円を描く過程で描かれた対象に徐々に近づいていくしかない。



山根秀信

ありふれた日常の風景は、そこに暮らす私にとって、それがありふれていればありふれている程度意識し上らない。そしてそれは対象化されないほど私の在り様を根底で規定している、という考えに至った時から「地」としてあった風景が「つまらないもの」という輪郭線に伴った「図」として開れてきた。それ以降、風景を題材に「つまらなさ」を作品の主題として、もちろんそれは「つまらなさ」へと向かう視線の変容の試みとして制作を行っている。

●「東極」の磁場in WAKASA 2024 開催のごあいさつ

今展では、「東極」の地と関わりのある2名の作家を新たに加え、日本を含む東アジアの7名の作家達が結集し、明日に拓かれる表現の、新たな地平と可能性を切り開く磁場となることを目指すものである。「東極」展を開催する趣旨は、展覧会を通して、各々の芸術活動を活性化させるきっかけとすることであり、そこで展開される制作行為が客観的視点に立った複眼的思考による発見と挑戦を繰り返すことで、その極を逆転し発信を可能とする大きな力となることであろう。「東極」展に求められるものは、そのような柔軟で持続性のある発信そのものである。

「東極」展二度目の発表となる若狭は古代より大陸にむかって開かれた玄関口であり、その地に創設された熊川宿若狭美術館が、前年に続き歴史的にも発表の場として相応しい場所であるということによって本展が実現した。東極文化圏の日本は、広く世界のさまざまな分野の刺激と影響を大きく受けながら、それらを柔軟に受容し、独自の新たな発信の主体となって行く歴史を持っている。

熊川宿若狭美術館・出品者一同

- ギャラリー・トーク / 10月5日(土) 13:30～ 展示会場にて ● パフォーマンス・丸山常生(ギャリートーク・終了後)



1949生 神奈川県在住 文芸評論家、立教大学名誉教授、美術義重研究
明治大学助教授、東京都立大学助教授、立教大学教授などを歴任。
1983年、「ファルスの複製-小島信夫論」で第26回群像新人賞評論部門受賞。
講演録をギャラリーK: 斎藤義重からラウシェンバーグへ
http://gallery.k.coocan.jp/second/columns/each/sengokuhideyo_column.html

千石英世



1951年京都に生まれ、横浜在住。東京芸術大学デザイン専攻卒業
2010 登米アートトリエンナーレ2010、みやぎの明治村、登米
2016 個展「Landscape / Relationship」、上海梧桐美術館、上海
2020 個展「Landscape SP-D」、SPCギャラリー(2024 Landscape SP-G)、東京
2023 COSTELLATION 2023 展、練馬区立美術館、東京
2024 「東極」の磁場in WAKASA 2024、熊川宿若狭美術館(2023)、若狭

市野泰通



1950年 兵庫県加古川市生まれ 東京芸術大学大学院絵画科修了
1979 神田駿河台画廊 個展
1987 第6回浜松野外作品展(静岡)
1993 かわさき IBM 市民文化ギャラリー 個展(神奈川)
2017 上海梧桐美術館 個展(中国、上海)
2019 SPC ギャラリー 個展 '19', '21', '22', '23 (東京)

中川 猛



1943生 福井県在住 現代美術作家 多摩美術大学絵画科法画専攻卒業
1968 北美文化協会に参加～1977、第5回北美大賞受賞。
1975 若狭作家集団を結成～1985。
1983 第16回現代日本美術展大賞受賞。
2012 アートフェメント2012「長谷光城の現在-はだま」展(福井県(金津創作の森)、
村松画廊、東京画廊等で個展開催35回、多数のグループ展に出品。子ども美術、
障がい者アート支援活動にも取り組む。

長谷光城



1958生 上海在住 現代美術作家 上海師範大学卒業 千葉成夫著作を翻訳
2021 個展 第九回深圳国際芸術博覧会 B29 深圳市 广东省 中国
2021 グループ展 非帯 異業 時尚文化創意センター 寧波市 浙江省 中国
2021 三人展 藝術三味 妙山美術館 湖州市 浙江省 中国
2023 全国作家展 廣域星光「聯合」平頂山市立美術館 平頂山市 河南省 中国
2020 六人展 離れないー 京滬六人作品展 北城空間 北京 中国
2020 グループ展 著 新華新聞上海 中国

苑 健児



1956 東京に生まれる
1982 東京芸術大学大学院美術研究科 絵画専攻修了 1979年より美術家・パフォー
マンスアーティストとして活動開始。近年の発表は以下など。
2024 個展 開通-「サキ」のまにまに「トキ・アートスペース 東京」
2023 「東極」の磁場in WAKASA 2024 (熊川宿若狭美術館 若狭 福井)
2022 個展 "At the Saltpans of the Turning World" Art Space Ouda Delank ベルリン ドイツ
"WILLY WY" - Art, Time, Space (Muzey savenemestretnosti Vojvodine ノビサド セルビア)

丸山常生



1960年代生まれ 現代美術作家、上海出身。
1991年7月に上海師範大学美術系を卒業。
2022 「各節と希望」北京北上北芸術展
2022 「相見相聞」上海現代芸術展
2023 「映像マトリックス」上海李海峰個展
2024 「境界の外」上海意中画廊芸術展

李 海峰



1959生 山口県在住 現代美術作家 東京芸術専門学校(TSA)卒業
2023 個展「オブジェ-風景 2023」クリエイティブ・スペース赤れんが(山口)
2017 「ニュー・フラット・フィールド」デジタルリリウッド大学八王子創作スタジオ(東京)
2012 個展「墨山の根幹芸術Vol.1」山根秀信「風景」展 まつだい「豊饒台」ギャラリー(新潟)
2007 ワークショップ「ROUTE102-豆腐を食べて、小径を作る」山口市中心商店街(山口)
2006 「中原中也・詩の情景/絵画の情景 あゝ?ー山根秀信」 中原中也記念館(山口)

山根秀信

2F きらりアート 江戸雄飛 展



テレビや新聞等で見聞きした語句を、思いつくと即、それを声に発して、連想する語句を次々とつなげながら、猛スピードでその文字を書き重ねていく。乱雑にかさなり解読不能な筆跡のかたまりとなり作品は完成する。必ず、「最後にー」と言って描き終える。絵から文字が生まれた。文字(言葉)から絵へ遊っていく過程、その中で生み出された油性サインペンによるドローイング(抽象絵画)が注目を浴びてきた。

そして、2021(令和3)年にはNHKEテレビ「no art no life」が国内外に放映され、2023(令和5)年には福井県若狭美術教育成事業アートアタック選考作家として銀座・ギャラリー一晩で個展を開催し注目された。今展は、キャンバスに樹脂絵の具を使つてのドローイング。全面が塗りたくられて描き終わった結果としての新たな作品を展示する。

- 1997生 福井県若狭町在住
2014 若狭ものづくり美字舎きらりアート部に入部
第5回きらりアート展 きらりアート賞
2015 のぞみ会主催行事<書道制作>に参加
第6回きらりアート展 きらりアート準大賞
2017 第8回きらりアート展 きらりアート大賞
2018 第9回きらりアート展 きらりアート賞(書道作品受賞)
きらりアート6人展(於:熊川宿若狭美術館)
2019 第10回きらりアート展 きらりアート準大賞
『和日・作業・素生(わび・さび・すき)の表現者たち』展(富山県)
2020 第11回きらりアート展 きらりアート賞
江戸雄飛展「増殖する書」(於:熊川宿若狭美術館)
『アールブリュット・クリエイティブジャパン』展(新潟県)
『美のコトと人との美』展(富山県)
2021 第12回きらりアート展 きらりアート大賞
NHKE テレビ「no art no life」国内外に放映
2022 第13回きらりアート展 特別賞
2023 個展(於:ギャラリー一晩) 福井県若狭美術教育成事業
第14回きらりアート展 特別賞
衝撃の現代美術～きらりアート&きらりアート交流展(福井県立美術館/福井県)
2024 まるまるつながるアートでんまる展(福井県立美術館/福井県)
きらりアートと子ども美術(熊川宿若狭美術館/福井県)
きらりアート展 in うみんぴあ大展(ホテルうみんぴあ/福井県)

鑑賞の場・語らいの場・憩いの場 熊川宿若狭美術館

〒919-1532 福井県三方上中郡若狭町熊川 39-5-1 TEL・FAX 050-3565-5885
<http://gallery-kumagawa.main.jp/> *本場で1名様無料でご入場いただけます

文化庁 文化庁委託事業「令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業」

